23l-pm02

肥満関連遺伝子検査による一般市民の生活習慣改善への試み　ー東洋医学的体質を合わせた検討ー

○池田 佳代[1], 細井 徹[1], 三浦 常代[2,3], 島崎 一郎[4], 春日 真由[5], 高畑 真由子[5], 龍 春花[2], 幾田 美紀[2], 谷口 智昭[2], 天崎 あゆみ[2], 吉井 美智子[1], 杉山 政則[6], 大谷 純一[2], 若生 あき[5], 小澤 光一郎[1]（[1]広島大院医歯薬保　治療薬効学, [2]（一社）広島市薬剤師会　広島南薬局, [3]（公社）広島県薬剤師会, [4]薬膳薬局, [5]（一財）緑風会　緑風会薬局, [6]広島大院医歯薬保　未病・予防医学共同研究講座）

【目的】私たちは、現在までに一般市民を対象として、肥満関連遺伝子検査を用いた薬局での「健康フェア」を行っている。一般に肥満には「遺伝的体質」及び「環境」の両者が関係することが知られているが、肥満は一般的に「環境」の影響が大きいとされている。従って肥満予防には生活習慣の改善が効果的な一方で、肥満関連遺伝子と肥満との関連性については議論されているところである。そこで、本研究では肥満関連遺伝子と基礎代謝量の因果関係の解明を行った。

【方法】肥満関連遺伝子として *ADRB2*、*ADRB3*、*UCP1* の遺伝子多型を検討した。測定基礎代謝量は呼気分析と相関が高い TANITA 体組成計を用いて求めた。「『測定基礎代謝量』と『推定基礎代謝量（Ganpule の式）』の差」A に対する「肥満関連遺伝子型による基礎代謝量の変動量」B の相関分析により遺伝子型の肥満への影響を検討した。検査対象者には遺伝子検査結果に対する自己受容の度合いも合わせて調査した。広島大学疫学倫理審査委員会及びヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果・考察】相関分析の結果、上記 A と B 値に「弱い関連性」が認められ、肥満関連遺伝子と基礎代謝量との関連性が示唆された。また、検査対象者の 8 割程度が肥満関連遺伝子結果に「とても納得できる」、「納得できる」と回答したことから、自らも本遺伝子との関連を認める傾向があった。一方、抗肥満症治療薬は漢方薬が主に用いられているため、久本ら[1)]の報告を参考に、現在、東洋医学的体質を合わせた体質の把握を目的とした検討も行っており、これらについても報告する予定である。

【謝辞】本研究は JSPS 科学研究費 JP26460219 及び（公財）一般用医薬品セルフメディケーション振興財団 平成 30 年度調査・研究助成金を得て実施したものである。

【参考文献】1）久本久美子ら、日東医誌、68、1-11、2017